

「継続的な被災地支援を」

能登半島地震の発生から11ヶ月が過ぎようとしています、被災地の復旧・復興にはまだまだ時間がかかるとの報道を耳にします。さらに、輪島市などの奥能登地区では9月にも豪雨災害に見舞われており、そこで暮らす方々の痛みは計り知れないと感じます。

そのような未曾有の災難を被った能登地区で、本校の部活動の生徒達が、複数回ボランティア活動を行っています。また、生徒会は文化祭で集めた義援金を、被害の大きかった3箇所の自治体に寄付することを考え、10月には内灘町役場を訪問し川口町長に手渡ししてきました。ボランティア活動は継続することに大きな意味と価値があり、本校ではさまざまな形で被災地域を継続的に支援しています。能登地方を中心に千年に一度の自然災害に見舞われた石川県。「人の痛みがわかる」「他者に手を差し伸べられる」ことは何にも勝る大きな魅力であり、人間性を表しています。今年を振り返るにあたり、自分の言動や生活環境を考える機会としてください。

主幹教諭 笠谷 清一郎

【後期新人大会が行われました】

後期県新人大会が11月6日(水)から10日(日)にかけて、県内の各会場で行われ、剣道部は女子団体の3連覇を果たしました。

県新人大会、および北信越新人大会では、ソフトボール部、男子テニス部、少林寺拳法同好会が、全国選抜大会への出場を決めました。

記録の詳細はホームページを参照してください。



【「金沢エール (かなえーる)」始動！】

「指導から支援へ」という本校の教育方針を示す「金沢エール」というキャッチフレーズが、今年度新たに誕生しました。校名である「金沢」と、生徒を支え、応援する「エール」を組み合わせたキャッチコピーを作り、「金沢エール (かなえーる)」と呼ぶことにしました。

さらに、英語で支援を表す Assist が名前の由来である、「あしすとん」(右)という親しみやすいキャラクターを同時に作成し、パンフレットやポスター等で活用しています。本校の教育活動を表したキャッチコピー・キャラクターとして、今後さらに多くの人々に認知されていくことを願っています。

(入試広報部長 谷口 智)



【冬の感染症予防について】

冬に入ると空気が乾燥してウイルスが増殖しやすくなり、インフルエンザなどの感染症に注意が必要となります。下記の感染予防対策に心がけ、体調管理には十分注意しましょう。

①健康観察

健康状態の異変や兆候等を早期に把握し対処する。

②身体の抵抗力を高める

「十分な睡眠」、「適度な運動」および「バランスの取れた食事」を心がける。

③手洗い

外出後、トイレの後、食事の前など、流水と石けんで30秒程度かけて丁寧に洗う。

④咳エチケット (マスク着用の推奨)

周囲に飛沫を飛ばさないよう、咳・くしゃみをする際、ティッシュ・ハンカチなどを使って、口や鼻をおさえる。

⑤換気

30分に1回以上、数分間、窓を全開にする。

(保健室 林 暁子)

【被災地でボランティア活動を実施】

日本財団HEROs 災害支援チームの指導のもと、ソフトボール部、男子バスケットボール部、水泳部の生徒と教員計56人が、11月9日と10日の2日間、豪雨で甚大な被害を受けた能登半島地震の被災地を訪れ、泥のかき出しや家財道具の移動などのボランティア活動を行いました。(活動の様子はホームページで)

